

# 区分：人文・社会科学

授業科目名	人間と文化（哲学）					学期	曜日	校時
英語名	Humanity and Culture (Philosophy)							
担当 教官名	井上義彦	単位数	2単位	必修 選択	選 択	後期	月曜日	校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>哲学は Philosophia とは、philo（愛求する）+ sophia（知恵）として愛知の学である。知恵とは世界や人間における根本原理であり、それを愛求することが哲学することである。では、ある知識が真理として原理であるとは何故いえるのか。真理成立の根拠は何か（真理論）、なぜ真理として認識できるのか（認識論）、哲学の根本問題を考える。</p>								
テキスト、教材等								
教科書は用いない。参考文献は適宜紹介する。								
対象学生	成績評価の方法				教官研究室			
全学部	定期試験、出席状況等を考慮して行う。							
授 業 計 画								
<p>第1回 哲学の語源から、哲学とは何かを考える。</p> <p>第2回 古代ギリシャから中世を経て近代に至る哲学の歴史。</p> <p>第3回 近代哲学の特色と意義。</p> <p>第4回 F. ベーコンの哲学（経験論）。</p> <p>第5回 } R. デカルトの哲学（合理論）。</p> <p>第6回 }</p> <p>第7回 経験論（帰納法）と合理論（演繹法）との対比的考察。</p> <p>第8回 真理論 対応説（経験論）と整合説（合理論）。</p> <p>第9回 合理論と経験論との批判的総合としてのカント哲学。</p> <p>第10回 } カントの「思考法の革命」としてのコペルニクス的転回の意義。ア・プリオリで総合的な認識の可能性（認識論）。</p> <p>第11回 }</p> <p>第12回 } 霊魂の不死の証明、決定論と自由の問題（二律背反）、神の存在証明などの形而上学の問題に対する解答。</p> <p>第13回 }</p> <p>第14回 ヘーゲルの哲学と弁証法。</p> <p>第15回 まとめとしての総論。</p>								